

アクレックス 3520 2液フロア

仕 様 書

和信化学工業株式会社

木工塗料事業部

平成 年 月 日

アクレックス 3520 2液フロア

(非トルエン・キシレン塗料)

「アクレックス 3520 2液フロア」は、2液タイプのウレタン塗料で、環境に対応した水系タイプです。2液タイプにすることにより、優れた性能と耐久性を持つことが可能となりました。厳しい性能を要求される、体育館等の激しい運動をするフロアでも十分な耐久性を持っており、シューズと床との摩擦によるキズ(ラバーマーク)にも耐性を持っています。また、無黄変性の為に体育館の白ライン上に塗装しても白が冴えます。

§ ホルムアルデヒド放散等級

F (日本塗料工業会登録 W01287)

F は建築基準法における屋内に面積の制限なく使用できる建築材料を示す規格です。

§ 特 長

- 水系塗料 …………… 環境対応型であり火気の心配がありません。
臭気が少なく作業中でも気になりません。
厚生労働省指定の毒物・劇物、消防法の危険物に該当しません。(キシレン、トルエン、エチルベンゼン、ホルムアルデヒドを使用していません。)
硬化剤は危険物第4類となります。
- 塗膜性能が良好 …………… 溶剤系のウレタン塗料に近い性能を持っており、耐溶剤性や耐ラバーマーク性に優れており強靱な塗膜を長期間維持します。
- 無黄変性 …………… 油変性タイプのように黄変することがないので、体育館の白ラインの上に塗装しても、白色が黄味を帯びることがありません。
- 2液混合性UP …………… 通常の水系2液塗料の混合にはハンドミキサー等による機械攪拌が必要ですが、本品は混合した2液を良く振ることによっても均一に混ぜ合わすことが可能です。
缶を振ることができない場合にはハンドミキサー等による攪拌をお勧めします。

§ 用 途

文教施設・店舗・一般住宅など広範囲木質フロアの塗装。

§ 使用 方法

1. 使用前に主剤をよく攪拌して下さい。
2. 主剤の入っている缶に専用硬化剤を添加し(主剤:専用硬化剤 = 10:1 重量比)、栓をして激しく振って均一に混ぜ合わせます。(その際に必ず均一に混ざっているかどうか、別容器に移すなどして確認して下さい。混ざりが悪いと底の方に透明なツブツブが沈殿します。) その後、15分間以上放置して泡を抜いて下さい。
機械攪拌の場合は泡が立ちにくいように丁寧に攪拌して下さい。
(主剤を攪拌しながら専用硬化剤を入れる必要はありません。)
3. 混合後の塗料の使用可能時間は約3時間です。(高温になる夏場は短くなります。) 基本的には原液でお使い下さい。乾燥が速くて塗りにくい場合などは水で希釈して下さい。(混合した塗料に対して5%程度。希釈しすぎると、求める肉持ちが得られない事がありますのでご注意下さい)
主剤と専用硬化剤の混合比、可使時間を厳守して下さい。性能低下の原因となります。(ゲル化しなくても可使時間を過ぎている場合がありますのでご注意下さい。)
使用の前には本書後半にある注意事項を必ずお読み下さい。

§ 塗 料 性 状

外 観	主 剤;乳白色液体 硬化剤;無色透明液体	
粘 度	16 秒 ± 2 秒	混合後 4 フォードカップ / 25
密 度	1.06 ± 0.02	混合後 25 (ウイトカップ)
不揮発分	41%	混合後
凍結安定性	主 剤;異常なし 硬化剤;異常なし	- 10 ~ 室温 凍結融解 5 サイクル
保管安定性	主 剤;異常なし 硬化剤;異常なし	50 1ヶ月保管

§ 乾 燥 性 目 安

塗 布 量 80 ~ 90 g/m²

乾燥時間 指触 30分、指圧 4時間 (気温/湿度、20 / 50%)

条件によって乾燥状況は変わりますので参考として下さい。

§ 塗膜性能

項目	結果	条件
耐酸性	○	5%酢酸水 スポットテスト 24 時間
耐アルカリ性	○	5%炭酸ナトリウム水 スポットテスト 24 時間
耐水性	○	水道水 スポットテスト 24 時間
耐アルコール性	○	60%エタノール水 スポットテスト 24 時間
耐溶剤性	○	塗料用うすめ液 スポットテスト 24 時間
	○	キシレン スポットテスト 24 時間
耐マジック性	黒 赤	24 時間後ベンジンふき取り
耐クレヨン性	黒○ 赤○	24 時間後ベンジンふき取り
耐インキ性	黒 赤×	スポットテスト 24 時間
耐湿熱性	○	300 cc沸騰水入りビーカー 1 時間放置
鉛筆硬度	F	ガラス板 5 ミル 20 /60%にて 11 日養生
床スベリ性	0.33	JIS-A-1407
耐摩耗性	17mg	テーパ-摩耗試験 CS-17 1kg荷重 1000 回

カバ合板 3回塗装 25 /40%にて7日間養生

§ 各種塗膜との密着性

塗料名	アクレックス 3520 2液フロア が上塗りの時		アクレックス 3520 2液フロア が下塗りの時	
	研磨あり	研磨なし	研磨あり	研磨なし
アクレックス 3000 ホ-ア-ステイン オーク 原液 拭き取りなし 原液 拭き取りあり 原液/水 = 1/1 拭き取りなし 原液/水 = 1/1 拭き取りあり	×	×	-	-
アクレックス 3900 ネオステイン			-	-
アクレックス 3300 ウッドシーラー				
アクレックス 3350 サンテング	×	×		
アクレックス 3950 ネオサンテング	×	×		
アクレックス 3400 木部用ウレタンクリヤー				
アクレックス 3960 ネオクリヤー				
アクレックス 3750 素材感				
アクレックス 3500 フロア				
ガードラックラテックス			-	-
ワシエコステイン			-	-

「アクレックス 3520 2液フロア」が下塗りで「溶剤系塗料」が上塗りの場合は、
リフティングの可能性があるので出来るだけ控えて下さい。

実際には素材、塗布量、塗り重ねる時間、その他の条件等で変わることがありますので塗布する前に確認することをお勧めします。

§ 塗装工程 (例)

1 体育館 フロア塗装 (リフォーム塗装)

工 程	使 用 塗 料	塗 布 量	乾 燥 時 間	備 考
研 磨	#120～#180メッシュ			ポリッシャー
上 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0～5	80～90g/m ²	一夜放置	短毛ムートン

塗装翌日の歩行は可能ですが、競技使用には10日～2週間程度養生が必要です。(低温時での施工は、養生期間が短い場合特に、ラバーマークがつきやすくなりますので、ご注意下さい。)

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、参考として下さい。

2 - 1 体育館 新規フロア塗装(アクレックス 3520 2液フロアのための仕上げ)

工 程	使 用 塗 料	塗 布 量	乾 燥 時 間	備 考
素地調整	#80～#100メッシュ			
下 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0～5	80～90g/m ²	4時間以上	短毛ムートン
研 磨	#120～#180メッシュ			ポリッシャー
中 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0～5	80～90g/m ²	4時間以上	短毛ムートン
研 磨	#120～#180メッシュ			ポリッシャー
ライン塗装	必要に応じてライン塗装を行います			
上 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0～5	80～90g/m ²	一夜放置	短毛ムートン

塗装翌日の歩行は可能ですが、競技使用には10日～2週間程度の養生が必要です。(低温時での施工は、養生期間が短い場合特に、ラバーマークがつきやすくなりますので、ご注意下さい。)

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、参考として下さい。

より耐久性を要求される場合は「アクレックス 3520 2液フロア」の中塗りを1回増やす事(計4回塗装)をお勧めします。

2 - 2 体育館 新規フロア塗装 (1液タイプとの工程組み仕上げ)

4回塗装を行う場合は、下塗り、中塗りに1液タイプ「アクレックス 3500フロア」を使用することが出来ます。

工 程	使用塗料	塗布量	乾燥時間	備 考
素地調整	#80～#100メッシュ			
下 塗	アクレックス 3500フロア 100 水道水 0～5	80～100g/m ²	4時間以上	短毛ムートン
研 磨	#120～#180メッシュ ポリッシャー			
中 塗1	アクレックス 3500フロア 100 水道水 0～5	80～100g/m ²	4時間以上	短毛ムートン
研 磨	#120～#180メッシュ ポリッシャー			
中 塗2	アクレックス 3500フロア 100 水道水 0～5	80～100g/m ²	4時間以上	短毛ムートン
研 磨	#120～#180メッシュ ポリッシャー			
ライン塗装	必要に応じてライン塗装を行います			
上 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0～5	80～90g/m ²	一夜放置	短毛ムートン

塗装翌日の歩行は可能ですが、競技使用には10日～2週間程度の養生が必要です。(低温時での施工は、養生期間が短い場合特に、ラバーマークがつきやすくなりますので、ご注意下さい。)

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、参考として下さい。

下塗りには研磨性、乾燥性に優れた「アクレックス 3350 サンディング」を使用することも出来ます。

木床がナラ材の場合、アク汚染が発生する場合がありますので、下塗りには「アクレックス 3300 ウッドシーラー」のご使用をお勧めします。

3 - 1 体育館以外の木質フロア塗装（オール水系仕上げ）

工 程	使 用 塗 料	塗 布 量	乾 燥 時 間	備 考
素地調整	# 80 ~ # 100メッシュ			
着色	アクレックス 3000 ホアーステイン 50 水 50	60g/m ² 塗装直後にウエス 等で拭きあげ	1時間以上	刷毛
下 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0 ~ 5	80 ~ 90g/m ²	4時間以上	短毛ムートン
研 磨	# 120 ~ # 180メッシュ			ポリッシャー
上 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0 ~ 5	80 ~ 90g/m ²	一夜放置	短毛ムートン

アクレックス 3000 ホアーステインの原液使用や、拭き取りなしの仕上がりでは密着しない場合がありますので避けて下さい。

塗装翌日の歩行は可能ですが激しい運動等は避けて下さい。

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、参考として下さい。

3 - 2 体育館以外の木質フロア塗装（着色のみ環境対応型溶剤系塗料仕上げ）

工 程	使 用 塗 料	塗 布 量	乾 燥 時 間	備 考
素地調整	# 80 ~ # 100メッシュ			
着色	ワシン エコステイン各色	50 ~ 80g/m ² 塗装直後にウエス 等で拭きあげ	4時間以上	刷毛
下 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0 ~ 5	80 ~ 90g/m ²	4時間以上	短毛ムートン
研 磨	# 120 ~ # 180メッシュ			ポリッシャー
上 塗	アクレックス 3520 2液フロア 主 剤 100 専用硬化剤 10 水道水 0 ~ 5	80 ~ 90g/m ²	一夜放置	短毛ムートン

ワシン エコステインを拭き取ったウエスの処理にご注意下さい。

(塗料の付着した布切れなどを積み重ねて放置しておきますと、自然発火することがありますので、その都度焼却するか廃棄するまで水につけておいて下さい。)

塗装翌日の歩行は可能ですが激しい運動等は避けて下さい。

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので、目安として下さい。

§ 使用上の注意

5 以下での塗装や、多湿の際の塗装は硬化時間が極端に遅れるだけでなく、仕上がりが問題となり、求める塗膜性能が出にくくなる場合が有りますので避けて下さい。(特に低温での塗装では耐ラバーマーク性が出にくくなります。)

主剤と硬化剤を混入後、缶を振って混ぜ合わせる際には、ある程度振ってから少し放置させてなじませ、その後再度振ると混ざりやすくなります。

可使時間を過ぎると性能が出なくなりますので厳守して下さい。

(ゲル化しなくても可使時間を過ぎている場合がありますので注意して下さい。)

専用硬化剤は「第4類 第2石油類」の危険物となりますので消防法に従ってお取り扱い下さい。また、空気中の湿気と反応し増粘しますので、使用分だけを取り出して直ちに密封して下さい。

作業中や養生中はできるだけ換気を良くして下さい。上塗りの養生時にはゴミの付着には注意して下さい。

本品は水系塗料でありますので低温時には凍結しますが、解凍すれば問題ありません。しかし、できるだけ凍結させないように注意が必要です。

また、よくフタをし、直射日光を避けたところに保管して下さい。

刷毛などの塗装器具の洗浄は、乾かぬうちに水でよく洗ってください。乾いてしまうと水では落ちませんので、ご注意下さい。

取り扱い中は、塗料ができるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具等を着用して下さい。皮膚等に付着した場合には、多量の石鹼水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときには、医師の診察を受けて下さい。

目に入った場合には多量の水で洗い、直ちに医師の診察を受けて下さい。誤って飲み込んだ場合も、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。

子供の手の届かないところに保管して下さい。

残塗料及び洗浄廃液は、河川・下水などに捨てず、中身を使いきってから廃棄して下さい。

本来の用途以外には使用しないで下さい。

更に詳細な内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照下さい。